舞鶴市陶芸館

スマホの通知、溢れるタイムライン。
日々のスピード感にちょっと疲れたら、雄大な青葉山のふもとで静かに佇む「舞鶴市陶芸館」へ向かってほしい。
ここはかつて市民の熱い想いによって誕生した全国でも珍しい公営の陶芸施設です。
今回は、立ち上げからこの館を支える陶芸家であり、気さくな館長でもある高井晴美さんにお話を伺いました。

**人間にはコントロールできない窯（かま）の中の神秘。
だからこそ、また次の作品をつくりたくなる。**

陶芸館館長：高井　晴美さん

市民の熱意で生まれた、青葉山の「隠れ家」



――木の香りと窓いっぱいに広がる豊かな青葉山の自然。前庭からの光がふんだんに差し込む開放的な館内に一歩足を踏み入れるだけで、不思議と心が凪いでいく。実はこの美しい木造の建物、周囲の山の地形に寄り添うように、緩やかな弓形に設計されているのだという。そんな自然と調和した施設は、30数年前に市民が起こした「署名運動」から始まった。

高井　私がちょうど京都での修行を終えて、30歳で舞鶴へ帰ってきた頃のことです。当時は市内に陶芸をやりたい人がたくさんいたのですが、作品を焼く「窯（かま）」がなかった。みんな作りたい想いはあっても、肝心の焼く場所がない状態だったんです。そこで「みんなで使える大きな施設を作ってほしい」と署名運動が始まり、その熱意が実を結び、全国でも珍しい公営の陶芸施設が誕生しました。

――驚くべきは、その開かれた運営体制だ。専門知識を持つ職員が常駐し、初めての人から長年通う愛好家までを優しくサポートしている。

高井　公営の施設として、多くの方が芸術に触れてもらえるような環境づくりを心がけています。どなたでも気軽に一歩を踏み出せる利用しやすい料金になっているので、初めての方から「この金額で本格的に始められるの？」と驚かれることもあります。ここでは「これを作りましょう」というルールは一切なくて、初心者の方にとって本当に一歩を踏み出しやすい場所なんです。

本格的な環境を活かす、世代を超えた「泥遊び」



――館内にずらりと並ぶ5台の電動ろくろ。そして、作品を焼き上げる窯は用途に合わせて大・中・小と3基も備えられている。

高井　京都府内を探しても、これほどの施設はなかなかないと思います。ここには陶芸を専門に学んできたスタッフがいますから、分からないことはいつでも気軽に聞いていただける環境です。それに、本格的に陶芸をしようと思うと、実は「自分の窯を持つこと」が、若い作家にとって大きな壁になります。窯は300万円以上することもあります。ここではそんな憧れの設備を、初めての方からベテランさんまで、みんなで贅沢に共有できるんですよ。

――さらに、初めて土に触れる人でも「のびのびと創作に没頭できるように」という、プロならではの優しい気配りも用意されている。

高井　陶芸体験では、砂や粒（シャモット）を混ぜて乾燥時の収縮を抑えた、割れにくい特別な土を用意しています。逆に上級者向けには、扱いが難しいけれど滑らかで繊細な表現ができるきめ細かな信楽の土を、私が現地まで直接足を運んで選んでいます。失敗を怖がらずに、時間を忘れて土と呼吸を合わせる楽しさを、まずは知ってもらいたいですね。

今も胸を躍らせる、窯という名の「タイムカプセル」

――初対面の緊張をほどいてくれたのは、高井さんの純粋さだった。こちらの問いかけに、聞けば聞くほどまっすぐ心をひらいてくれる温かさ。そんな原点にあるのは、生まれ育った舞鶴の「成生（なりゅう）」の海だ。彼女の窯も、その愛おしい故郷の地名から「成生窯」と名付けている。

高井　私の原点は、幼い頃に成生の海で遊んだ砂の感触や、泥遊びの記憶なんです。幼い頃に毎晩聞いた波の音や会話は私にとっての子守唄であり、五感の記憶すべてが土を通して形になっています。だから自分のテーマを決める時『私は海の作家になりたい』と迷わず決めました。

――そう語る彼女は、日本最高峰の美術展「日展」に21回の入選実績を持つ。長く第一線で創作を続けられる理由を訊くと、彼女は目を輝かせてこう答えてくれた。

高井　焼き物は窯から出してみるまでプロでも分かりません。失敗することもたくさんありますが、その思い通りにいかない驚きがあるからこそ焼き物は面白くて、また次をつくりたくなるんですよ。

**――常に一流でありたいと、努力と研鑽を重ね磨き上げてきた極限の技術。それでもどうなるか出してみるまで窯にゆだねる覚悟。その狭間で生まれる奇跡を面白がる姿にこそ、陶芸という表現のロマンがある。
最後に、これから陶芸館に訪れる読者へ向けてメッセージをいただいた。**

高井　失敗なんて気にせず、世界に一つしかない、自分の大好きなものを作りに来てくださいね。

――スマホの通知、溢れるタイムライン。日々のスピード感にちょっと疲れたら、陶芸館で土をこね未来へと想いを馳せてみてはどうだろうか。陶芸というタイムカプセルは時間を委ねることでひらかれるのだ。

（インタビュー・文／編集長 YOSSHI.）



舞鶴市陶芸館 11月体験講座 SCHEDULE



青葉山ろく公園内にある舞鶴市陶芸館は、子どもから大人まで陶芸を楽しめる施設です。
初心者向けの陶芸体験をはじめ、電動ろくろや絵付け、継続して学べる各種講座を実施しています。

陶芸体験コース（手びねり）

日　時　随時
所要時間　60～90分
料　金　大人／1,100円、小・中学生／800円
申　込　事前予約

陶芸体験コース（ろくろ体験）

日　時　11月21日（土）9:30／11:00／14:00
所要時間　各回60分
料　金　大人／1,400円　小・中学生／1,100円　幼児／1,000円
定　員　各回5人
申　込　事前予約

場　所　舞鶴市字岡安3-2（青葉山ろく公園内）
申込・お問合せ　舞鶴市陶芸館　TEL・FAX 0773-64-3263
開館・受付時間　9:00～17:00　休館日　毎週月曜日（祝日の場合はその翌日）

詳細は陶芸館まで
舞鶴市陶芸館 WEBサイト

子どもたちの 集え!!アート・アベンジャーズ! オリジナル文化祭「MAI FES.」マイフェス 発表者募集!

“好き”をカタチに!

“好き”の力で誰かの心を動かす小さなアートヒーローたちが集い、互いの“好き”を響かせ合うオリジナル文化祭です。
主役になって、ここでしかできない経験をしてみませんか？

舞　台　ステージ発表（1組30分以内）※準備・撤収含む　歌、ダンス、演奏など
展　示　作品の展示　絵画、イラスト、生け花、写真など
その他　舞台・展示以外の文化芸術活動の披露　プログラミング、将棋、ボランティアなど

日　程　令和9年1月31日（日）　会　場　舞鶴市総合文化会館
対　象　市内在住の中学生を中心とした団体、または個人
申込方法　専用フォームから申込みまたは申込用紙（市役所に設置）を文化・国際課窓口へ提出
申込期間　令和8年11月15日（日）まで

お申し込みはコチラから！ ◀申込フォーム
詳しくは、舞鶴市ホームページをご覧ください。 ◀舞鶴市HP

1時間で60回笑う！即興パフォーマンス集団 ロクディム舞鶴ライブ 11月22日チケット発売!!

日　時　2027.2.27（土）sat　start 14:00～（開場 13:30）
場　所　舞鶴市総合文化会館 小ホール
料　金　一般 2,500円／高校生以下 500円（各税込）（当日券は各500円増）※3歳以上有料 ※0歳から入場可　全席自由
ご予約・お問合せ　舞鶴市総合文化会館 TEL0773-64-0880
11月22日（日）会館窓口／9:00～、電話予約・プレイガイド・オンライン／13:00～
店舗〈受付時間各店17・15まで〉
■舞鶴市内……舞鶴市総合文化会館／エール東舞鶴店（らぽーる）／バザールタウン舞鶴
■綾部市内……バザールタウン綾部アスパ　■その他の地域…にしがき全店
ローソンチケット　Lコード:51069
オンラインチケット　https://www.s2.e-get.jp/maizuru/pt/
チケットのお求めは



台本のない即興演劇（インプロ）×即興コメディのパフォーマンス集団「ロクディム」。2027年2月27日（土）の公演に先駆け、2026年11月16日（月）～18日（水）に市内の小中学校で特別なワークショップを開催。「相手の話を聞き、受け取る、伝える」日常会話を遊びながら重ね、心地よい関わり方を体感します。学校現場で190回以上実施される、安心感に満ちたプログラムです。
ロクディムYouTube ▲
※即興演劇（インプロ）とは、台本や事前の打ち合わせがなく、その場のお題や観客の声から瞬時に物語を紡ぐ演劇のことです。